

平成24年度 指導者研修会 報告

■2月2日～3日 大阪・大阪アカデミア



北海道から沖縄まで全国の小学生から高校生までの指導者が集まって行われる研修会が、今年も2月
大阪で開催されました。今回は「フェアプレーとマナー」、「愛好者の増加」、「指導者の在り方」等をテー
マに話し合いました。各分科会の報告を紹介します。

小学生部会

フェアプレーとマナー

- ・人間形成を目的として指導にあたる。
- ・相手の気持ちをわかろうとする子どもの育成を
目指す。
- ・子どもだけでなく、指導者や親御さんの意識を
上げていくことが必要。
- ・ジュニア審判員の権威を上げていく（イエロー
カードがジュニアハンドブックに載っていない）。
- ・ガッツポーズはどこまでよいか。
(相手に不快を与える、自分たちの意識の高揚
を目指したものであれば良いのでは)
- ・ソフトテニスを通じて競争を！

(古き良き日本は、家庭で、お隣近所で、村で、
町で、みんなで子供をしつけ育てた。現在はそれ
が失われ、孤立している。それを補い、人間らし
さを取り戻すためソフトテニスを通じて競争を！)
・マナーについてのガイドブックを作る。
・大会の開会式や閉会式でマナー講師から指導を
頂く（一般・高校・中学の大会等でも指導して
もらう）。

愛好者の維持・増加に向けて

- ・場の提供を第一に！
(したくともする場所がない現状の打破)
- 地域のクラブでジュニアから育て、大きくなっ
てもそこで次の世代を育てる循環作り。
- 例：(西郷ジュニア、親や周り、地域を巻き込む)
- ・地域に根差した企業のクラブチームを育成する
(沖縄)。
- ・総合型地域スポーツクラブの活用
(大分県等での取り組み)。
- どのスポーツも経験させる、交流を作る。

指導者について

- ・ほぼボランティア。指導者、中高の先生方の厚
意で成り立っている（土日がない）。
- ・ソフトテニスという競技の良さを伝える。
- ・若い指導者が必要。卒業後の大学生を都道府県
連盟のコーチ人材として登録。

【連盟参加者】

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
専務理事	笠井 達夫	理事	井上 清一	強化委員会スタッフ	高井 志保
常務理事	和歌浦信雄	シニア部会長	本田 茂雄	強化委員会スタッフ	篠邊 保
常務理事	柳下 秋久	小学生部会長	金岡 昭房	強化委員会スタッフ	橋本 康徳
常務理事	田中 正男	強化委員会スタッフ	斉藤 広宣	強化委員会スタッフ	安達 和紀
理事	斉藤 元三	強化委員会スタッフ	田中 弘	強化委員会スタッフ	小峯 秋二
理事	安藤 正美	強化委員会スタッフ	中堀 成生	強化委員会スタッフ	沼崎 優子
理事	吉田 博紀	強化委員会スタッフ	高川 経生	強化委員会スタッフ	川上 晃司
理事	神崎 公宏	強化委員会スタッフ	小野寺 剛	強化委員会スタッフ	吉川友巳奈
理事	北本 英幸	強化委員会スタッフ	中津川澄男	事務局次長	玉木 進
理事	野際 照章	強化委員会スタッフ	池田 征弘	大阪府連理事長	阿部 宗一
理事	大川 京子	強化委員会スタッフ	岡村 勝幸	大阪府連副理事長	友谷 往弘

【各支部参加者】

支部	小学生指導者	中学生指導者	高校生指導者	支部	小学生指導者	中学生指導者	高校生指導者
1 北海道	向井 一洋	庄司 浩人	早川 真司	25 滋賀県	田中 靖雄	黒川 敏也	吉田 靖
青森県		奥寺 努	船水 宏二	26 京都府	藤田 正雄	原田 肇	坂間 章夫
岩手県	内澤由理子	菊地 晃秀	内藤 真一	27 大阪府	吉崎 晋弘	本西 義民	今井 博文
4 宮城県		根元 勝美	根本 光泰	28 兵庫県	芝地 康幸	水田 孝	間嶋 孝史
5 秋田県	福田 浩	渡辺 泰介	高田 屋馨	29 奈良県	吉田 和央	松下 直示	上村 亮介
6 山形県	安孫子秀次	村上 康広	大西 正明	30 和歌山県	川並久美子	吉川 豊	貴志 裕文
7 福島県	菊田 茂男	小林 慎司	深沢 雅人	31 鳥取県	地原 忠実	佐城 潤三	大田 正樹
8 茨城県	関山 達朗		大滝 暢彦	32 島根県	真玉 浩二	矢田 卓	原 伸次
9 栃木県	岡崎 裕	小野 慎吾		33 岡山県	光森 伸一	木科 孝夫	寺坂 銳子
10 群馬県	石田 和久	都木 均	北爪 秀明	34 広島県	畠山 洋二	梅川 元祥	高森 太志
11 埼玉県	佐藤 浩康	鈴木 覇	浅田 欣也	35 山口県	橋口 敏秋	福田 光正	松森 泰洋
12 千葉県	品川 均		押田 正彦	36 徳島県	松本 賢一	矢部 淳	
13 東京都	花園 智弘	平野 富靖	高橋 慎典	37 香川県	小西 俊博	梅谷 知数	松口 哲也
14 神奈川県	松口 康彦	井上 春彦	塚野 刚史	38 愛媛県	宇野 一行	勝木 則夫	浦田 雄一
15 山梨県	宮下 昭夫	松川 英	米山 正仁	39 高知県	畔地 正人	生田 悟士	黒岩 哲幸
16 新潟県	小野 道康	桑原 通泰	山森 真二	40 福岡県	中村 正広	龍 大介	谷 慎介
17 長野県	山口 明宏	池田 司		41 佐賀県	川原 俊彦	有須田修治	古賀 敦
18 富山県	近川 利行	渋谷 圭祐	山森 誠二	42 長崎県	木村 明子	松井大一郎	小林 雄介
19 石川県	宮本 猛	大路 貴之	青木 崇	43 熊本県	岩下 敏和	池田 完治	平山 隆久
20 福井県	早水さゆり	矢口 裕行	山本 真司	44 大分県	羽田野文彦	芦刈 明	平原 英和
21 静岡県	渡瀬 義正	鈴木 隆	足立 真一	45 宮崎県	小西 常夫	西岡 知雄	當瀬 純一
22 愛知県	高場 武雄	石原 達也	加藤 好治	46 鹿児島県	南 俊行	川東 耕次	平岡 修
23 三重県	山下 学	落合 康司	中村 聖一	47 沖縄県	普天間富士子	長堂 嘉明	東 竜一郎
24 岐阜県	國枝 俊子	野口 稔尚	岡本 茂徳				

選手について

- ・上位の選手と、そうでない選手では出られる大
会が限られてくる。底辺の子を育てる。上位に
入れない子のための大会を地域で作る。
- ・小中学校、高校でも1部・2部・3部制を作る。
- ・中学から高校に行く時、選手が激減するのはな
ぜか？「勝てないから」か。部活動奨励が高校
ではなされていないからか？燃え尽き症候群
か？





ソフトテニスの普及

- ・環境作り。競技自体に活気が必要。社会体験・生活体験を積む場として
(タテ社会・ヨコ社会を意識した環境の整備)
- ・子どもたちには、タテ社会(親御さんや監督・コーチ、先輩・後輩、年上の人への感謝)とヨコ社会(仲間意識・チームワークの大切さ)両方を学んでもらいたい。

(文・中村・波田野・普天間)

中学生部会

今回のテーマについて

各ブロックごとに以下の報告があった。

【北海道・東北ブロック】

- ・審判育成の必要性。
- ・競技者の土台である中学生選手を2年3ヵ月できちんと育成することの重要性。
- ・個人が持てる「ハンドブック」や「教本」等の整備の急務について。

【関東ブロック】

- ・観客席から応援していただけるようなプレーの検討。
- ・「全力」、「きびきび」、「ポイント後の態度」等が整っている選手の育成。

【北信越ブロック】

- ・本年度から「あくしゅ・あいさつ・ありがとう」の実施。

【東海ブロック】

- ・「顧問」と「外部コーチ」の在り方と教育的目線の必要性。
- ・中学生の手本となるべき「選手のふるまい・マナー・着衣」への指摘。

【近畿ブロック】

- ・本年度から「あくしゅ・あいさつ・ありがとう」の実施と拡大化の実際。
- ・「大人のマナー」課題の実際。
- ・指導者の質的向上のための指導者育成の必要性。
- ・着衣指導を継続中だが、カテゴリーごとに連携して取り組む必要性の提言。

【中国ブロック】

- ・ジャッジへの対応に関する課題。
- ・メディア利用の模索と検討への方向性。
- ・「中学生だからこそ」マナーを身に付けさせることのできる大会開催の実施。

【四国ブロック】

- ・「指導者を見て生徒が育つ」。指導者の在りようを考える提言。
- ・試合経験や達成体験をさせる必要性。

【九州ブロック】

- ・中学校から高校へとマナーアップが継続して行われる重要性。
- ・コートに関係する全てに感謝できる人間形成を基盤に置いた指導の在り方への提言。

【その他】

- ・ジュニア審判取得について、県によってはほぼ全員がジュニア審判取得を行っているところもある。こうした県をモデルにして、他県も審判取得を促していく。
- ・指導者の審判免許取得については、ほとんどの県で「任意」であった。県大会出場時の「監督」は「審判免許を必要とする」長崎県の方法を基

に、指導者のルール認識度を上げるために今後の検討課題とする。

その他

平成28年度から完全実施されるゼッケンについて。

「他競技を手本とした“登録者確認が可能な”ゼッケンの配布の検討を願う」由の提案を行った。

総括 マナーアップについて

本年度の全中女子個人決勝のような観客・応援・会場全体から拍手や賞賛をいただける選手や指導者・あいさつ・行動・身なりとなるよう、各都道府県で指導を徹底していく。

選手及び指導者の「審判技術」の習得を具体的な方法を検討しながら推進していく。

(文・熊本県 池田完治)

高校生部会

高校部会では、「フェアプレーとマナー」、「環境」、「愛好者の増加」、「指導者の在り方」の4つの柱に沿って話し合いを行いました。

フェアプレーとマナー

- ・これを身に付けさせるためには、指導者が「目的」と「目標」を明確にして指導していく必要がある。生きる力を身に付けるという目的のために、通過点(目標)である勝利があるということを指導者自身が理解して指導しなければ、真のフェアプレーとマナーは身に付けさせることができない。
- ・強い心、感謝する心、尊敬する心の3つの心が、フェアプレーとマナーがしっかりと身に付いた本物のアスリートにしてくれるものである。
- ・保護者のマナー対策が必要。
- ・試合終了後に、相手と握手を交わすだけでなく、審判とも握手を交わすことで、審判へのリスク

となり、それがプレー中のマナーにも関わってくる。

ユニフォーム等の着用基準に「シャツは入れる」ということをルールとしてハンドブックにしっかりと明記する。

環境

この問題については、他方面から「保護者が応援に来る際、会場への車の乗り入れを制限する」という意見があった。高校部会としては、地域によっては車を利用しない限り無理なところもあるということで、この問題は地域によっても差があるため、出来ることをしっかりやろうという話にとどまった。

愛好者の増加

- ・指導者が中心になって熱心に活動しているところの部員数は非常に多いということからもわかるように、愛好者増加のためには指導者の確保・育成が必要。
- ・メディアを利用しての活動を積極的に行ってはいけないか?
- ・中学と高校の交流会を積極的に持つことで、高校に入学しても安心してテニスが続けられる。

指導者の在り方

- ・指導者の資質が求められている。
- ・現時点で指導している我々が今、しっかりとしなければならない。

